

化学品の名称: コサイド(R) 3000

発行日: 2021/05/11

印刷日: 2021/05/11

コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M) SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: コサイド(R) 3000

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 殺菌剤

使用上の制限: 上記の特定用途以外には製品を使用しないこと。

会社情報

コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社

100-6110

東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー

会社電話番号 : 03-3519-3410
電子メールアドレス : SDS@corteva.com
FAX番号 : 03-3519-3370

緊急連絡電話番号
24時間対応緊急連絡先 : 0800-170-5827
緊急連絡電話番号 : 0800-170-5827

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

急性毒性 - 区分 4 - 経口

急性毒性 - 区分 4 - 吸入

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 - 区分 2A

水生環境有害性 短期(急性) - 区分 1

水生環境有害性 長期(慢性) - 区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 警告!

危険有害性情報

飲み込んだ場合や吸入した場合は有害。
 強い眼刺激。
 長期継続の影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
 環境への放出を避けること。
 保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 漏出物を回収すること。

廃棄

内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
水酸化第二銅	20427-59-2	1-293		46.1%

Bentonite	1302-78-9		>= 10.0 - < 20.0 %
石英 (非吸入性)	14808-60-7	1-548	>= 0.3 - < 1.0 %
2, 4, 7, 9-テトラメチル-5-デシン- 4, 7-ジオール	126-86-3	2-263	>= 0.1 - < 0.25 %

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス:

中毒情報センターまたは医師に問い合わせるときや治療に行くときは、製品の容器またはラベルを持っていくこと。

吸入: 新鮮な空気のある場所に移動する。人工呼吸あるいは酸素吸入、場合によってはその両方が必要になることがある。中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

皮膚接触: 直ちに汚染された衣服を脱がせる。皮膚を直ちに多量の水で 15-20 分間洗う。中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

眼に入った場合: 目を開け水で 15-20 分間ゆっくり穏やかに洗う。コンタクトレンズを着用している場合は 5 分後に外し、その後も洗浄を続けること。中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

飲み込んだ場合: 飲み込むことが可能ならコップ一杯の水を飲ませる。中毒情報センターまたは医師からの指示を受けないでおう吐を誘引しない。意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを得る。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項: 症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水噴霧 耐アルコール泡消火剤

使ってはならない消火剤: 粉末消火剤

特有の危険有害性**有害燃焼副産物:** データなし

異常な火災および爆発の危険: 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。泡を使用するとかなりの量の水素ガスが放出されるが、泡で覆い閉じ込めることができる。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

消防士へのアドバイス

消火手順: 汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。

消火剤を容器の内容物に接触させない。ほとんどの消火剤は水素の発生を引き起こし、消火すると、換気の悪い場所や密閉された場所に蓄積し、発火した場合、フラッシュ火災や爆発を引き起こす可能性がある。安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。区域から退避させること。現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。

消火を行う者の保護: 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 粉じんの発生を避ける。粉じんを吸い込まないよう留意。保護具を使用する。適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項: 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目12の環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。回収物質は、ベント付き容器に保管すること。漏洩物質が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が侵入しないようにすること。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。追加情報として、項目13の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 蒸気/粉じんを吸い込まない。禁煙。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。眼との接触を避ける。皮膚や眼への接触を避けること。皮膚への長期のまたは反復接触を避ける。容器を密閉しておくこと。漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。

保管: 密閉容器に保管すること。一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。適切なラベルのついた容器に入れておく。各国の規定に従って保管する。

次の製品種類といっしょに保管しない: 強酸化剤。

容器に不適な素材: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
Bentonite	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 吸入性粉じん	0.5 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 総粉じん	2 mg/m ³
石英(非吸入性)	ACGIH	TWA 呼吸濃度	0.025 mg/m ³ , シリカ
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-C 吸入性粉じん	0.03 mg/m ³ , シリカ

曝露防止

工学的制御: 十分な換気を確保する。

衛生対策: 取扱後および飲食、ガム、タバコの使用前、またはトイレ使用前には、石鹼と水でよく手を洗う。物質が内部に入った場合、衣服/PPE(個人用保護具)を直ちに脱ぐ。十分に洗い、清潔な衣服を着用する。この製品の取り扱い後は速やかに保護具を取り外す。

保護対策: この製品によりひどく汚染または濡れた衣服および他の吸収剤を廃棄する。これらは再使用しない。製造者の個人保護具(PPE)のクリーニング/メンテナンスの指示に従うこと。もしそのような洗浄に関する指示が存在しない場合、洗剤と湯を使用すること。他の洗濯物と分けて個人保護具(PPE)を洗うこと。この製品を使用するとき、製品の最終使用者は保護措置に関するラベルの指示に従わなければならない。

保護具

呼吸用保護具: 適切な許容限界を超えた濃度で、空気中の浮遊物質に暴露される可能性がある場所では、承認されたダストおよびミスト用カートリッジ付呼吸保護具を着用すること。

手の保護具: 保護手袋

眼の保護具: この物質との接触を避けるため保護用眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具: 手袋、前掛け、長靴、カバーオールなどの保護衣を必要に応じて着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態	固体 粒状
色	暗い 青緑
臭い	銅特有の臭い
臭いの閾値	不定
pH	7.5 - 9.5
融点/ 範囲	データなし

凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	非該当
引火点	データなし
蒸発速度 (フイルアヘッド=1)	データなし
可燃性 (固体、気体)	燃焼が持続しない。
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重・相対密度 (水=1)	0.712
水溶性	分散性
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
動粘度	データなし
爆発特性	非爆発性
酸化特性	データなし
かさ密度	529 - 705 kg/m ³
分子量	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 反応性危険としては分類されない。

化学的安定性: 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 通常の状態では安定。

危険有害反応可能性: 知見なし。
特に言及すべき危害要因はない。

避けるべき条件: 知見なし。

混触危険物質: なし。

危険有害な分解生成物: 銅酸化物

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性**急性毒性（経口）**

誤飲した場合、弱い毒性を示す。通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。

製品として。

LD50, ラット, 1, 847 mg/kg

急性毒性（経皮）

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

製品として。

LD50, ラット, > 2, 000 mg/kg

急性毒性（吸入）

数分間の短時間暴露では、有害影響は起こりにくい。長期間ミストに過剰暴露すると、重篤な有害影響を起こすことがあり、死に至ることもある。

製品として。

LC50, ラット, 4 h, 粉じん, > 2.08 mg/l

皮膚腐食性／刺激性

短時間接触で、局部発赤を伴う軽い皮膚刺激を起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

軽度の一過性眼刺激作用を起こすことがある。

感作性

皮膚感作性：

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：

関連のある情報は得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（反復ばく露）を示さない。

発がん性

有効成分について：動物試験では発がん性はなかった。

催奇形性

有効成分について：動物試験で、催奇形性はなかった。

生殖毒性

有効成分について：動物試験では、生殖を阻害しなかった。

変異原性

有効成分について: 動物実験においては遺伝子の突然変異効果 は発現しなかった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

一般情報

環境への危険有害性: 陸上用 水、表面に水が存在する区域または平均高潮線未満の潮間区域に対して、直接使用しない。装置を洗浄するときや装置の洗浄液またはリンス液を廃棄する際に水を汚染しないこと。取り扱い領域からの漂流および流出物は、隣接した場所の魚や水生生物に対し危険有害である可能性がある。特記すべき生態学的影響は他にない 環境の予防措置に関する、取り扱いの追加説明は製品ラベルを参照する。

生態毒性**魚類に対する急性毒性**

製品として。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 96 h, 0.24 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, 0.118 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, *Selenastrum capricornutum* (緑藻), 72 h, 0.00939 mg/l

残留性・分解性**水酸化第二銅**

生分解性: 明らかな生分解性はないと考えられる。

Bentonite

生分解性: 生分解は適用不可。

2,4,7,9-テトラメチル-5-デシン-4,7-ジオール

生分解性: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。物質は本質的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では生物分解は 20%を超える。

10-day Window: 不合格

生分解: 5 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

生分解: 25.4 %
曝露時間: 57 d
方法: OECD テストガイドライン 302A あるいは同等のもの

生体蓄積性

生体蓄積性: 非該当

土壌中の移動性

水酸化第二銅

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。
分配係数(Koc): 21.73

Bentonite

関連のあるデータは得られていない。

2,4,7,9-テトラメチル-5-デシン-4,7-ジオール

土壌中移動性が小さい(Koc 500~2000)。
分配係数(Koc): 1670 推定値。

オゾン層への有害性

水酸化第二銅

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

Bentonite

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

石英(非吸入性)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

2,4,7,9-テトラメチル-5-デシン-4,7-ジオール

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

水酸化第二銅

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

Bentonite

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

石英(非吸入性)

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

2,4,7,9-テトラメチル-5-デシン-4,7-ジオール

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときにのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を定める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (copper hydroxide)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (copper hydroxide)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質(該当・非該当)	該当
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬 する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO):

国連輸送名	Environmentally hazardous substance, solid, n. o. s. (copper hydroxide)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III

詳細情報:

国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

農業取締法

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	濃度又は濃度範囲
銅及びその化合物	>= 40.0 - < 50.0 %
結晶質シリカ	>= 0.3 - < 1.0 %

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	濃度又は濃度範囲
銅及びその化合物	>= 40.0 - < 50.0 %
結晶質シリカ	>= 0.3 - < 1.0 %

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

16. その他の情報

その他の情報

ラベルに記載された使用説明に注意する。

改訂

ID 番号 : 011000006722 / 発行日 : 2021/05/11 / 版番号 : 4.1

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
OEL-C	最大許容濃度
OEL-M	許容濃度

TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50% 致死濃度; LD50 - 50% 致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性 (物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリ; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリ; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社は、お客様や (M) SDS の受領者の皆様が、この (M) SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M) SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の (M) SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した (M) SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した (M) SDS をお持ちの場合や、お手元の (M) SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP